

科目	基礎看護学	対象年次・時期	1・2年次
担当講師名	教員		
ねらい	基礎看護学は、他の専門領域の土台となる看護の概念と役割・機能、看護実践の基礎となる看護技術および看護を実践するための方法について学習します。 「看護のみちしるべ」は、看護とは何かを考え続けていくための視点や考え方を学習します。看護が行われている場を見学することで、看護の対象を理解し、看護の役割を考えていきます。また、医療者としての倫理観を養うための基盤となる看護倫理を学習内容に入れています。倫理について深く考え、3年次の科目「看護倫理」につなげましょう。「看護の基本技術」は対象の理解と看護を実践する上で必要な基本技術を学びます。「生活を支える看護」は、様々な場で生活する対象にとっての安全・安楽・自立に向けた援助を学びます。「診療を支える看護」は検査や薬の基礎知識をもとに、安全で正確な技術を身につけてみましょう。「看護の基本技術」「生活を支える看護」「診療を支える看護」では学内演習で多くの援助を体験します。体験を通して対象の思いを考え、自己の実践を振り返る力をつけましょう。安全で確実な技術を身につけると共に、対象の思いに添い、その人、その場に応じた援助を考え実践する力を養いましょう。1年次から2年次にかけて臨床判断能力を向上するための科目を入れています。1年次は気づき判断する過程を学び、2年次は対象の身体面・精神面・社会面を統合して対象を捉え、刻々と変化する対象の状況を判断する力を養います。シミュレーションを通して感じ考えた事をクラスメートと意見交換し、自己の考えを広げ、深めてきましょう。看護を学ぶ上でリフレクションは重要です。自己の考えや実践を振り返り、次に活かす過程を身につけましょう。		

科目構成	科目	学習内容	単位数	時間数	年次・時期
	看護のみちしるべ	1. 看護とは何か 2. 健康とは 3. 看護倫理 4. 看護の中の安全	2単位	45時間	1年次 前期～後期
	看護の基本技術	1. ヘルスアセスメント 2. 看護とコミュニケーション 3. 看護と記録 4. 看護と学習支援 5. 感染予防	2単位	45時間	1年次 前期～後期
	生活を支える看護Ⅰ	1. 環境を整える援助 2. 活動・休息・安楽の援助	1単位	30時間	1年次 前期
	生活を支える看護Ⅱ	1. 清潔・衣服の援助 2. 呼吸・環境を整える援助	1単位	30時間	1年次 前期～後期
	生活を支える看護Ⅲ	1. 食事の援助 2. 排泄の援助	1単位	30時間	1年次 前期～後期
	診療を支える看護	1. 診療・検査の援助 2. 与薬時の援助	1単位	30時間	2年次 前期
	看護実践の思考過程Ⅰ	臨床判断の基礎	1単位	30時間	1年次 後期
	看護実践の思考過程Ⅱ	看護過程	1単位	15時間	2年次 後期
	看護実践過程の基礎	臨床判断の基礎	1単位	30時間	2年次 前期

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	看護のみちしるべ			対象年次・時期	1年次・前期～後期
単位・時間	2単位・45時間				
担当講師名	教員				
科目目標	看護とは何か、看護師の役割は何かを探究し続けるための基本的な考え方を身につけられる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1～9	看護とは何か	1. 看護を学ぶにあたって 2. 看護の定義 3. 看護の役割と機能 4. 看護を必要とする場 5. 看護理論 6. 看護の対象の理解	教員	講義 GW 見学
	10～14	健康とは	1. 健康とはなにか 2. 国民の健康状態		講義 GW
	15～19	看護倫理	1. 倫理とは 2. 看護倫理 3. 看護実践における倫理問題		講義 GW
	20～22	看護の中の安全	1. 医療安全とは 2. 医療事故の要因 3. 医療事故防止策 4. 感染予防策の基本		講義 GW 演習
	23	終講試験			
テキスト 参考文献等	系統看護学 看護学概論(医学書院) ナイチンゲール「看護覚書」入門（医学書院） 看護の基本となるもの(日本看護協会) 基礎看護技術 I				
使用教材	パソコン、プロジェクター				
履修上の アドバイス	この科目は看護とは何か、看護師の役割とは何かを考え探究し続けるために考え方や視点を学習します。看護の場の見学や体験者の話、事例を使ってクラスメートの意見も取り入れながら自己の考えを深めていきましょう。 授業の順序性が変更となる可能性があります。授業ごとに担当教員から学習内容について指示がありますので確認してください。				
成績評価	評価方法			評価割合	
	筆記試験			6	
	パフォーマンス課題			4	
	* 筆記試験・パフォーマンス課題の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。 * パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行います。 * パフォーマンス課題の評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。				

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	看護の基本技術			対象年次・時期	1年次・前期	
単位・時間	2単位・45時間					
担当講師名	教員					
科目目標	看護を実践する上で基本となる観察・コミュニケーション技術を習得し、対象を把握する意義を理解できる。 基本的な看護記録・学習支援・感染予防の方法を学習し、看護師が行う記録や学習支援・感染予防の意義を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内 容	担当者	学習方法
	1～7	1	ヘルスアセスメント	1.ヘルスアセスメントの基礎知識 2.フィジカルアセスメントに必要な技術 3.身体計測 4.バイタルサインの観察技術とアセスメント 1) 血圧測定(触診法・聴診法) 2) 体温・脈拍・呼吸測定 3) バイタルサインの変動因子の影響 4) バイタルサインのアセスメント	教員	講義 演習
	8～10		看護とコミュニケーション	1.コミュニケーションの基礎的知識の理解 1) コミュニケーションの構成要素と成立過程 2) 相手に寄り添うとは	教員	GW 講義
				2.効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) アサーティブネス		GW 講義
				3.看護とコミュニケーション 4.コミュニケーションに障害がある人への対応 5.コミュニケーションの意義と看護師の役割		GW 講義
	11～13	看護と記録	1.看護記録の意義・目的の理解 1) 看護記録の管理・記録と法的規定 2) 記載・管理における看護師の責任	教員	講義	
			2.看護記録の構成 1) 基礎情報・看護計画・経過記録 2) リフレクション		講義 演習	
			3.記録の種類、記載の実際 4.看護と報告		講義 演習	
	14～16	2	看護と学習支援	1.学習に関わる諸理論 2.健康に生きることを支える学習支援 3.対象に合わせた支援方法と媒体の工夫 4.個別指導・集団指導の特性と適用 5.学習支援の実際(演習)	教員	講義 演習
	17～21		感染予防	1.感染の定義と成立過程・感染経路の理解 2.感染予防のための看護技術の実際の理解 1) 感染経路別対策 2) 感染源対策 3) 無菌操作 4) 防護用具	教員	講義 演習
22 23	終講試験(筆記試験・技術試験)					

テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術ⅠⅡ(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)			
使用教材	プロジェクター・PC・書画カメラ・ホワイトボード			
履修上のアドバイス	1. この科目では看護の基本となる技術を学びます。特に対象者を理解するための方法を学んでいきます。 2. ヘルスアセスメントでは対象者の身体に起きていることを知るための技術を学びます。対象者の生命にかかわる技術なので、正確で確実な技術を習得しましょう。 3. 看護コミュニケーションは対象者を理解するために必要な技術です。体験を通して対象者の思いを感じ、看護を行う上で必要な技術としてのコミュニケーションを学びましょう。 4. 看護記録はチームの中で患者の情報交換をする上で大切な方法です。記録・報告の原則を学び、看護師が行う記録・報告について理解を深めましょう。 5. 看護と学習支援では、基本的な指導の方法を体験を通して学びます。理論を知り、対象者に合わせた指導を行うための基礎を学びましょう。 6. 感染予防では感染予防の原則と方法を学びます。感染予防の技術はこれから学ぶすべての看護に関連してくるため、根拠を学び確実な技術を身につけましょう。 7. 演習の中で体験を通して学ぶ方法を多く取り入れています。自己学習とリフレクションで学びを深め、主体的に技術練習に取り組み、正確な技術を身につけましょう。			
成績評価	単元		評価方法	評価割合
	1	ヘルスアセスメント	筆記試験	4
			技術試験	3
		看護とコミュニケーション	筆記試験	3
	2	看護と記録	筆記試験	2
		看護と学習支援	筆記試験	2
		感染予防	筆記試験	6
* この科目は単元別評価を行います。 * 単元1・2の平均点が科目の点数となります。 * 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。				

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	生活を支える看護Ⅰ 環境を整える援助 活動・休息・安楽の援助				対象年次・時期	1年次・前期
単位・時間	1単位・30時間					
担当講師名	教員					
科目目標	安全・安楽・自立に向けた環境調整、活動・休息の看護を学び、生活を整える意義と看護の役割を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内 容	担当者	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7	1	環境を整える援助	1.環境とは 2.療養生活の環境 3.病床の環境と調整 4.病床環境を整える援助 1)ベッドメイキング 2)病床の整備のポイント 3)臥床患者のシーツ交換 5.ADL・活動の場に合わせた環境調整 6.環境調整の意義・看護の役割	教員	講義 演習
	8 9 10 11 12 13 14	2	活動・休息・安楽の援助	1.姿勢と体位・ボディメカニクス 2.人間の自然な動き 3.体位変換 4.ポジショニング 5.移動・移送 1)車いす 2)ストレッチャー 3)歩行の援助 6.安静の弊害 7.睡眠・休息の援助 8.ADL・活動の場に合わせた援助 9.活動・休息の意義・看護の役割	教員	講義 演習 GW
	15	終講試験(筆記試験(45分)・技術試験)				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)					
使用教材	演習は看護実習室で行う。					
履修上のアドバイス	1.在宅や入院生活を送る対象にとって安全で快適な環境を考えましょう。 2.人間の自然な動きをもとに、対象者にとって安全・安楽、自立に向けた活動や休息の援助方法を考えましょう。 3.患者役の体験を通して感じたことを活かし、患者への配慮も学んでいきましょう。					
成績評価	単元			評価方法	評価割合	
	1.環境を整える援助			筆記試験	3	
				技術試験	3	
	2.活動・休息・安楽の援助			筆記試験	4	
*この科目は単元別評価を行い、科目の成績は評価割合により算出されます。 *単元の筆記試験・技術試験の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。						

科目名	生活を支える看護Ⅱ 清潔・衣服の援助 呼吸・循環を整える援助				対象年次・時期	1年次・前～後期
単位・時間	1単位・30時間					
担当講師名	教員					
科目目標	安全・安楽に清潔を整えるための看護と呼吸・循環を整える看護を学び、生活を整える意義と看護の役割を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内 容	担当者	学習方法
	1	1	清潔・衣服の援助	1. 清潔とは	教員	講義・GW
	2			2. 清拭・寝衣交換 対象者にとって安全で心地良い清拭と寝衣交換		講義 演習
	3					
	4					
	5					
	6			3. 口腔ケア 4. 部分浴（足浴・陰部洗浄・手浴） 5. 洗髪		演習 GW
	7					
	8			6. ADL・生活の場に合わせた清潔援助		講義・GW
	9					
	10			7. 清潔の意義・看護師の役割		
	11	2	呼吸・循環を整える援助	1. 呼吸のメカニズム 2. 酸素療法 3. 排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 一時的吸引	教員	講義 演習
	12					
	13					
	14			4. 体温調節の援助 5. 末梢循環促進ケア		
	15	終講試験（筆記試験（45分）・技術試験）				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」（メディックメディア）					
使用教材	演習は看護実習室で行う。ホワイトボード					
履修上のアドバイス	1. 在宅や入院生活を送る対象にとって安全で快適な清潔援助を考えましょう。 2. 肌の露出の機会が多いため、羞恥心や保温への配慮は欠かせません。演習での体験から得た思いを援助に活かしましょう。 3. 人の生命活動を支えるためにも、呼吸・循環を整えることはとても重要な看護です。根拠を持って安全・安楽に実践できるよう技術について学びましょう。					
成績評価	単元			評価方法	評価割合	
	1.清潔・衣服の援助			筆記試験	3	
				技術試験	3	
	2.呼吸・循環を整える援助			筆記試験	4	
	*この科目は単元別評価を行い、科目の成績は評価割合により算出されます。 *単元の筆記試験・技術試験の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。					

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	生活を支える看護Ⅲ 食事の援助 排泄の援助		対象年次・時期	1年次・前～後期	
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	安全・安楽・自立に向けた食事・排泄の看護を学び、生活を整える意義と看護師の役割を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内 容	担当者	学習方法
	1	食事の援助	1. 栄養状態のアセスメント 2. 摂食・嚥下能力のアセスメント	教員	講義 GW
	2		3. 食事介助の具体的な方法 4. ADL、生活の場に合わせた援助		講義 演習
	3				
	4		5. 経口的食事摂取に障害のある対象者への援助 1) 経管栄養法の種類と具体的な安全・安楽な援助方法 2) 中心静脈栄養法に伴う合併症とは		講義
	5				
			6. 食事の意義と看護の役割		
	6	排泄の援助	1. 自然な排泄を維持・促進するための援助	教員	講義 GW
	7		2. ADLに合わせた排泄の援助		講義 演習 GW
	8		3・自然排尿が困難な場合の援助 1) 排尿困難・尿閉・尿失禁のある対象者への援助 2) 一時的導尿と持続的導尿の援助の実際		講義 演習 GW
	9				
	10		4. 自然排便が困難な場合の援助 1) 便秘・下痢のアセスメントと改善方法 2) 浣腸と摘便を安全に行うための援助方法の実際		講義 演習 GW
	11				
	12		5. 排泄の意義と看護の役割		講義 GW
	13				
14					
15	終講試験				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)				
履修上のアドバイス	1. 自己の食生活を振り返り、安全で楽しい食事の援助を考えていきましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することがとても大切です。患者体験を通して患者の気持ちを考えプライバシーに配慮した援助を考えましょう。 3. 授業の順序性が変更となる可能性があります。授業ごとに担当教員から学習内容について指示がありますので確認してください。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	診療を支える看護 診察・検査時の援助 与薬時の援助				対象年次・時期	2年次・前期	
単位・時間	1単位・30時間						
担当講師名	教員						
科目目標	安全・安楽に診療を支えるための看護を理解できる。						
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内 容	担当者	学習方法	
	1 2	1	診察・検査時の援助 (採血・採尿・穿刺時の援助)	1. 診察 1) 診察・検査のプロセス 2) 診察・検査における看護の役割 3) 診察の方法	教員	講義	
				2. 検査 1) 検査の種類と看護師の役割 2) 検査の種類と安全に検体を採取する方法と取り扱い 3) 安全安楽な援助方法 4) 検査での事故予防		講義	
				3. 検査時の援助 1) 静脈血採血・穿刺 2) 静脈血採血の実際(演習)		講義 演習	
	3 4 5						
	6 7 8	2	与薬時の援助	1. 与薬 1) 薬物の剤形による特徴と取り扱い 2) 与薬方法と効果の観察 3) 与薬における看護師の役割	教員	講義 GW	
				2. 注射 1) 注射方法と取り扱い 2) 注射の準備と援助の実際 3) 実施上の看護師の役割 3. 輸血管理 1) 輸血の種類と管理方法 2) 輸血による副作用 3) 輸血における看護師の役割		講義 演習 GW	
				与薬の意義と看護師の役割		GW 講義	
	14						
	15	終講試験					
	テキスト 参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術II(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)					
	履修上の アドバイス	事例をもとにその場に応じた看護援助を学習します。「人体のしくみとはたらき」「検査と看護」「薬と看護」に関連させ学習します。また、演習での体験から患者の思いを考え、実践を振り返り、安全で安楽な援助方法を探究する力を身につけていきましょう。					
	成績評価	単元			評価方法		評価割合
		1. 診察・検査時の援助			筆記試験		4
		2. 与薬時の援助			筆記試験		6
*この科目は単元別評価を行い、科目の成績は評価割合により算出されます。 *単元の筆記試験の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。							

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	看護実践の思考過程Ⅰ			対象年次・時期	1年次・後期
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	症状を呈する患者に合わせた看護を行うための臨床判断の基礎を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1 ～ 15	1.呼吸困難のある患者の看護 2.循環障害のある患者の看護 3.その他症状のある患者の看護		教員	講義 GW
テキスト・ 参考文献等	系統看護学講座 基礎看護学「4」臨床看護学総論(医学書院)				
履修上の アドバイス	この科目で学ぶ内容は、今後学習する各領域の看護の基礎となる知識です。症状を呈する患者さんに対して五感を使って観察し、解剖生理学や看護の知識を使って「気づき」「解釈」し、看護師のように考える思考過程を目指します。 この科目は3つの症状に対する看護をシミュレーションやフィジカルアセスメントを行いながら学習していきます。自己の学習や知識の確認のためには事前学習や追加学習が大切になってきますので、準備をして参加しましょう。				
成績評価	評価方法			評価割合	
	パフォーマンス課題			10	
	* パフォーマンス課題はルーブリックにより行います。 * パフォーマンス課題は、評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。				

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	看護実践の思考過程Ⅱ			対象年次・時期	2年次・後期
単位・時間	1単位・15時間				
担当講師名	教員				
科目目標	科学的思考で看護を行うプロセスを理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1	看護過程展開の技術	1. 看護過程とは 1) 看護過程に必要な理論と概念 2) 問題解決思考 3) クリティカルシンキング	教員	講義 GW
	5		2. 情報収集と情報整理 3. 情報のアセスメント		
	7		4. 看護問題の明確化 5. 看護診断 6. 看護計画 7. 評価 8. 看護過程の意義		
8	終講試験				
テキスト・参考 文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）				
使用教材	パソコン・プロジェクター				
履修上の アドバイス	1. 今まで学習してきた知識をフル活用して看護を考えていきましょう。 2. 実習で受け持った患者さんの看護を振り返りながら学習を進めます。実習で使用したポートフォリオや学習ノートを使います。				
成績評価	評価方法			評価割合	
	筆記試験			10	

令和7年度 専門分野 「基礎看護学」

科目名	看護実践過程の基礎		対象年次・時期	2年次・前期	
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	1.健康課題をもつ患者の願いを捉える意味を理解できる。 2.変化する患者の状況に合わせた看護を考える過程を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1		1.パフォーマンス課題オリエンテーション 2.ビジョン・ゴールの設定	教員	演習 GW
	2		3.患者の願いを捉える 4.日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える		
	5				
	14				
15	まとめ				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 疾病と看護 症状別看護 薬理学 成人看護学概論				
使用教材	ホワイトボード				
履修上の アドバイス	1.この科目はシミュレーション学習を取り入れ、実際の患者とのかかわりをリアルに体験します。患者の思いや生活の状況、疾患による症状を理解できるよう、実習や学内での体験を想起し、主体的に学びましょう。 2.これまで学習してきたすべての内容をフル活用して患者の全体像を理解しましょう。 3.この科目は基礎看護学実習Ⅱや領域別実習の基礎となる科目です。リフレクションを通して自ら学習課題を発見し解決する力をつけていきましょう。 4.グループワークを多く取り入れます。他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深めたり広げたりしていきましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	パフォーマンス課題		10		
	* パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行います。 * パフォーマンス課題は評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。				